

『講習の部』

講習会小委員会では、毎年ダム工学だけでなく様々な分野の講師をお招きして講演を実施しています。本年は2名の講師を御招きし、ダム管理における取り組みについて、ダム用PSアンカーの設計施工について講演していただきました。

『ダム管理における最近の取り組みについて』

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 流水管理室長 津森 貴行様

『「ダム用PSアンカー設計施工マニュアル」の骨子』

一般財団法人 ダム技術センター 研究第一部 部長 川崎 秀明様

津森 貴行講師からは、先ず「既存ダムの洪水調節機能の強化（事前放流）について」として、利水ダムを管理する関係省庁と連携した枠組みについて説明がありました。東日本豪雨以前は約60ダムであった枠組みが、本年には1,434ダムまで広がっていること、昨年より「事前放流」を実施していることを紹介いただきました。また昨年質問のあった利水ダムにおける事前放流の河川法上の解釈について、河川管理者による河川の管理の一環として治水協定に基づき利水ダム管理者に実施を求めるものであるとの説明がありました。公共放送の番組において、木曽川水系で2年連続連携して治水に効果のあったダム運用の取り組みについて取り上げられたことも紹介されました。

次にダムの洪水調節に関する検討会におけるとりまとめとして、緊急性が伝わることための用語の使用や、情報提供の改善、伝わるために普段から繰り返し説明することの重要性について説明がありました。

最後に今後の治水対策として、流域治水、AIを活用したダム運用の研究開発、未利用の水力エネルギーの活用推進について、説明がありました。

川崎 秀明講師からは、本年9月に発行された「ダム用PSアンカー設計施工マニュアル」について、海外における技術の発展史として1934年にアルジェリアのシェファーダムの堤体補強で適用されたのが最初であること、国内においても1957年に藤原ダムの副ダムで用いられたが、その後は岩盤PSアンカーが主であったこと、最近の事例として川俣ダムにおける岩盤PSアンカーの更新、千本ダムにおける国内初となる堤体PSアンカーの適用について説明がありました。

次にマニュアルの骨子として、ソイルアンカーとロックアンカーの考え方の違い、海外と国内におけるアンカーに求めるプレストレスの意識の違い、必要な補強に対するPSアンカ

一の適用事例について、具体的なダムの事例も含めて紹介がありました。今後本マニュアルのWEB講習会を実施し広く設計施工知識の普及を図る予定であることから、聴講者への参加の呼びかけがありました。

今回の2名の講師のお話を通して、ダムにおける最新の話題を知る良い機会となりました。またこのような機会をより多くの皆様に提供するためにも、産官学が参加するダム工学会の本会が、情報や意見交換の場として活用されるよう努めていくつもりです。



津森講師によるオンライン講義と質疑



川崎講師によるオンライン講義